

神戸大・本紙提携

「神戸地域講座」から

育児に奮闘する専業主婦の母を見て育った。自分は社会に出てキャリアウーマンになるのが夢だった。  
短大卒業後に幼稚園の先生になったが、1年で挫折した。会社勤めを経て結婚し、26歳で長男を出産した。専業主婦をしているときに、やはり働きたいと幼児教室を開いた。30歳のときだ。  
当時、女性の社会進出が広がりにつつあった。働く母親を手助けしたく、2000年に会社を設立した。現在、兵庫県内外の企業や病

木田 聖子さん

チャイルドハート社長

⑥



院で事業所内保育園などを運営している。日本は先進国中最も子育てしにくい国といえる。女性1人が生涯に産む子どもの数の推計を示す「合計特殊出生率」は1.42と低

少子化の中で大切なこと  
社会全体で子育てする仕組み

い。対してフランスは2.01、スウェーデンは1.91だ。  
仕事と育児の両立には社会的支援が欠かせない。育児休業制度や保育園などの整備、男性の家庭進出、残業

周囲の助けが大きな支えに

い。日本では今後も働く女性は増える。既に共働き世帯が専業主婦世帯より多くなつており、保育園はさらに拡大する。保育市場は11年に2兆円を突破し、子育て支援の制度も整えられ始めた。  
当社は地域に根ざした「幸福追求型」の企業を目指している。顧客、保育士、経営の三つの視点のバランスを保ち、親も社員も皆がハッピーになれる会社であり続けたい。  
親のニーズをくみ取り、きめこまかな支援  
泣いている子どもが  
いればあやす、ベビーカーを押す人を手伝う。そんな周囲のちょっとした助けが母親の大きな支えとなる。みなさんにはそのことをぜひ伝えたい。  
(まどめ 神戸大大学院・金森彩夏)  
〓おわり〓

きたしよ、1961年、明石市生まれ。武庫川女子短大卒。企業内保育園のほか学童保育にも参入。保育園連のコンサルタントも手掛ける。神戸イクメン大賞実行委員会委員長。座右の銘は「過保護はあまなる福のごとし」。